

神奈川県議会議員

永田 まりな

MARINA NAGATA



鎌倉人 VOL.70

令和5年 第1回定例会開会

2/13(月)より令和5年第1回定例会が開会しました。

令和5年度当初予算案は、本年4月に知事選挙があるため、義務的経費を中心とした骨格予算となっていますが、行政の停滞や県民生活への支障を招くことがないよう、「持続可能な神奈川」の実現に向けた予算として編成されたとの説明がありました。本会議で提案された令和5年度の当初予算一般会計は2兆2千億円超え、特別会計と企業会計を加えた全会計の予算規模の合計は4兆6,815億円。5年連続で4兆円超え、全会計合計では過去最大となっています。

永田の
提言

予算化されました!

多様な働き方を 子どもたちの未来に投資を

私永田が議会で提言とともに要望し、予算化された事案のうち4つの事業をご報告します。他にも取り組んできた課題が予算化したもの、また形になりつつあるものもあります。いずれも市民県民に寄り添い、より良い事業となるよう引き続きしっかり議論にあたっていきます。

01

ベンチャー企業の創出・成長支援

HATSU鎌倉など県内3か所の企業創出拠点及びベンチャー企業成長促進拠点SHINみなとみらいにおいて各種支援プログラムを実施する。また、脱炭素推進や社会課題の解決に繋がる新たなサービス等の開発・実証を支援する。

永田のポイント

多様な働き方の推奨は市議時代より取り組んでいたことのひとつです。そのひとつであるベンチャー企業の創出、成長支援は県議一年目より継続して取組み、今年度も予算化または予算の充実を実現することができました。今後も若年層へのチャンス拡大、そして女性、障がいを持った方々など、「働くことの壁」があるとされている方々も含め、全ての方にとって働きやすい環境について考え、より骨太な取組みへと育てていきます。

02

観光振興計画推進事業費

スマートフォンの位置情報等の活用により、国内観光客に加え、新たに外国人観光客を対象とした観光データを収集・分析する。

永田のポイント

鎌倉は全国屈指の観光地の一つですが、観光消費額が低いことや一部の観光地に観光客が集まることによるオーバーツーリズム、そのことを起因とする交通渋滞など観光にまつわる課題が多くあります。観光客の流れ、ニーズなど確かなデータの下に施策を講じるべきと要望していたものが本年度予算化されました。雰囲気ではなくデータに基づく施策の展開に期待しています。

03

スクールカウンセラー等の配置拡充

スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの配置を拡充し、相談体制を強化する。また、困難を抱える子どもを早期に把握し、相談から医療・福祉へとつなぐ「かながわ子どもサポートドック」を新たに実施する。

永田のポイント

高校生を始めとする子どもたちが悩みを抱え、スクールカウンセラーに相談をする機会は年々増加、コロナ禍以前と比較すると倍増とも言われています。なかなかスクールカウンセラーの予約がとれない、という保護者の方からの悲痛な叫びを聞いたことから現状を調査し、県に働きかけてきたものが実現しました。子どもたちに必要な支援の拡充を引き続き求めます。

妊娠SOS事業の拡大

予期しない妊娠等に関する悩みを抱える方に、電話・LINEによる相談や、直接会って話を伺うアウトリーチを実施する「妊娠SOSかながわ」事業について、LINEは週3日から年中無休（年末年始除く）へ、電話・LINEとも時間延長（現行16~19時から16~21時へ）



子ども・子育て施策の充実を!

自民党会派が要望を続けてきた子ども・子育て支援の充実がまたひとつ実現しました。県の小児医療費助成の対象年齢について、これまで小学校入学前（6歳）までであったものが、この4月より小学校卒業（12歳）までに引き上げとなります。

小児医療費の各家庭の負担を軽減する助成は市町村が行っていますが、県は現行、各市町村の小児医療費のうち四分の一～二分の一を助成しています。この助成割合は変えず、対象年齢を拡げるものです。各自治体の財政負担が軽減されるため、子ども子育て施策を充実させる市町村が増えることが期待されます。なお、鎌倉市においては昨年4月より小児医療費助成について、小中学生の養育者の所得制限を撤廃しています。

永田のポイント

この案件について取り組み始めたのは、一昨 year 大船で起きた赤ちゃんの遺体のロッカー置き去りが起きたことから。母親である女性を責めるのは簡単ですが、なぜそのようなことが起きたのか、赤ちゃんの命を助けるための福祉的な手助けは十分だったのかを調べ始め、市内でこの案件について働きかけをしている方々と意見交換をしたことがきっかけでした。

妊娠した経緯、またその後の対応を辿ると、もっと福祉的な手助けがあれば、誰かに相談することができていたならば、赤ちゃんの命を救うことができたのではないかと。そして近隣一都三県と比較し、神奈川県が妊娠SOSが少々見劣りしているとも感じ、この部分の拡充を決算委員会でもかなりしつこく質疑、前向きな答弁をいただいていた。その後異例とも言える早さで、今年度当初予算で拡充が実現したことは、担当課を始めとする関係者の皆様の理解とご尽力のおかげであり、心より感謝申し上げます。

予期せぬ妊娠をした方がひとりで悩むことのないよう手を差し伸べる事業は、女性新法が施行間近な今、特に大切です。まだまだ十分ではないかもしれませんが大切な一歩と捉えています。



永田まりなプロフィール



1983年2月19日生まれ40歳 七里ガ浜在住
 聖路加幼稚園 ~ 鎌倉市立七里ガ浜小学校 ~ 私立北鎌倉女学園中学校
 神奈川県立鎌倉高校 ~ フェリス女学院大学卒業

2013年 鎌倉市議選初当選、2017年 鎌倉市議選2期目当選
 2019年 神奈川県議会議員初当選
 総務政策常任委員会所属、自民党神奈川県連 遊説局長
 公式LINEで県政情報など随時発信中!

「永田まりな」公式LINE
 友だち登録はこちら

